

豊岡市教育研修センターだより



豊岡市教育委員会 R5(2023).11.13

No.10

豊岡市HP→左中段「くらし・行政」→右下「教育・学校」→「教育研修センター」へ
豊岡市のホームページにもアップしています

研修の核！ ～教科を超えて共通して取り組む視点～

豊岡市学力向上検討委員会からの提案

知識や技能を活用する授業づくり

提案① 授業前半で習得した知識や技能を活用し新たな課題を解決したり表現したりする活動を取り入れましょう！

「コミュニケーション4視点」を活用した授業づくり

提案② 教科の授業の中で「めざすコミュニケーション能力育成の4つの視点」を積極的に活用しましょう！

思考法を活用した授業づくり

提案③ 本時の目標を達成することが大切です。そのために、どの思考法が有効かを考えて授業にぜひ取り入れましょう！

ズレを生み出し、見つけ、生かす授業づくり

提案④

- ・子どもたちの多様な考えを引き出す発問をしましょう！【ズレを生み出す】
- ・子どもの発言の何が同じで、何が異なるかを見つねながら聴きましょう！【ズレを見つける】
- ・本時の目標の達成に向けて話題を焦点化し再提示(追発問)しましょう！【ズレを生かす】

10月30日

校内研修担当者
研修会より

兵庫教育大学大学院 勝見教授による講義

(提案を受けて)

日々の授業で心がけたいこと

- ★年間の教科カリキュラムの中で、探究的なプロセスが可能な重点項目を選定しましょう！
 - ・条件(何を・誰に・何のために・どのように)を問いに埋め込みましょう。
 - ・プロセスで教科の知を活用させましょう。
- ★型やパターンの習得だけにとどめぬようにしましょう！
 - ・条件の変化や、例外との出会いこそ大切。
- ★「思考の仕方」は、筋道の通った話し合いのための「手段」です！
 - ・使った後の「ズレ」こそ深まりの契機に。
 - ・個々の考えの発表後のもう一手の存在を。

NG⇒固定化した「正解」を確認する授業
表面的なパターンを適応させる授業

～ 再確認をしましょう ～

★考えを発表し合うだけ⇒学びは深まらない

- ①課題に向けた自分なりの考えをつくる
- ②全員で考えを交流する【累積的な対話】
- ③思考の質を深める【探索的な対話】

教師からの関与として、

- ・個々の発言への意味付け・価値づけ(リボイス)を
- ・自他の違いの意識化、異なる着眼・発想の客観的吟味を

気を付けて！

- ▲「期待する姿」(＝評価規準)が曖昧
NG「生き生きと」、「理解している」等
- ▲「手だて」が曖昧
NG「グループで話し合わせる」…どうやって？

「学びのあしあと」より～参加された先生方の振り返り

○校内研修の担当として、どのような力が求められているのか？よりよい研修のためにはどのような計画をすべきか…今回の勝見教授のお話にはそのヒントがたくさん詰まっていたように思います。

➡【研修担当に求められるもの】

- ・感度…目の前の子どもの状況、世の中の動きに敏感
- ・デザイン力…「総論」と「各論」の構造化、「目的」と「手段」の明示
- ・計画力…タイムテーブル、今していることの意味
- ・推進力…協働的・並走的な姿勢 + リーダーシップ
- ・調整力…良好な同僚性の保持、丁寧な情報共有

○勝見先生から授業アイデアの助言をいただき、ありがたかったです。話し合いの中で、意見の練合や深めるための工夫は、まだこれから改善が必要だと気付かせていただきました。また、意見交流で、研修の核をしっかりと押さえることも必要だと思いました。関係づける思考は、自校でも広めていくことが大切だと思いました。今後も授業をする中で、意識して取り組んでいきたいです。

○評価規準の話で、自分の実践でも不十分であると感じました。はっきりと目的意識をもって、生徒に関わり続けることを大切にしたいです。自校での実践や事後研修でも共通理解し、全員にとって学びの多いものに改善したいです。

○話し合いの結果を出して終わりではなく、そこからのプロセスが大切であるということ、曖昧な目標を具体的にどのように実践するかが大切であるということが特に印象に残っています。型からはみだしを追求することは、時間と手間がかかるが挑戦してみたいです！

○学力向上検討委員として、授業アイデア集を作らせてもらいましたが、仲間とともに様々な議論をすることで多くの学びがありました。関係づけるということが、目的にならないようにしなければいけないなと思いました。目標を達成するための手段として、思考法を効果的に使い、関係づける力をしっかりと身に付けていきたいと思います。大変貴重な機会をいただきありがとうございました。